



2019年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2019年2月1日

上場会社名 セントラル硝子株式会社 上場取引所 東
 コード番号 4044 URL <http://www.cgco.co.jp>
 代表者 (役職名) 代表取締役 社長執行役員 (氏名) 清水 正
 問合せ先責任者 (役職名) 執行役員 経営管理室長 (氏名) 宮内 徹 TEL 03-3259-7062
 四半期報告書提出予定日 2019年2月8日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2019年3月期第3四半期の連結業績 (2018年4月1日～2018年12月31日)

(1) 連結経営成績 (累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2019年3月期第3四半期	173,039	2.9	7,699	69.5	8,974	60.2	6,792	99.8
2018年3月期第3四半期	168,148	4.4	4,542	△48.8	5,600	△46.3	3,399	△55.9

(注) 包括利益 2019年3月期第3四半期 1,985百万円 (△81.3%) 2018年3月期第3四半期 10,593百万円 (45.9%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2019年3月期第3四半期	167.83	—
2018年3月期第3四半期	83.68	—

(注) 当社は、2017年10月1日付で普通株式5株につき1株の割合で株式併合を実施しております。これに伴い、前連結会計年度の期首に当該株式併合が行われたと仮定し、「1株当たり四半期純利益」を算定しております。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2019年3月期第3四半期	319,280	175,337	53.8
2018年3月期	316,846	175,628	54.4

(参考) 自己資本 2019年3月期第3四半期 171,766百万円 2018年3月期 172,214百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2018年3月期	—	5.00	—	25.00	—
2019年3月期	—	25.00	—	—	—
2019年3月期 (予想)	—	—	—	25.00	50.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

当社は、2017年10月1日を効力発生日として普通株式5株につき1株の割合で株式併合を実施いたしましたので、2018年3月期の1株当たり期末配当金については、当該株式併合の影響を考慮した金額を記載し、年間配当金合計は「—」として記載しております。株式併合後の基準で換算した2018年3月期の1株当たり年間配当金は50円となります。

3. 2019年3月期の連結業績予想 (2018年4月1日～2019年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	230,000	1.0	8,000	32.5	9,000	42.2	6,200	108.0	152.77

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：有

(注) 詳細は、添付資料P. 7「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)」をご覧ください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2019年3月期3Q	42,975,995株	2018年3月期	42,975,995株
② 期末自己株式数	2019年3月期3Q	2,504,666株	2018年3月期	2,503,508株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2019年3月期3Q	40,472,136株	2018年3月期3Q	40,619,649株

(注) 当社は、2017年10月1日付で普通株式5株につき1株の割合で株式併合を実施しております。これに伴い、前連結会計年度の期首に当該株式併合が行われたと仮定し、期中平均株式数を算定しております。

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P. 2「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	2
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	2
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	3
(1) 四半期連結貸借対照表	3
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	5
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	5
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	7
(継続企業の前提に関する注記)	7
(四半期連結貸借対照表に関する注記)	7
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	7
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	7
(追加情報)	7
(セグメント情報)	8

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、引き続き企業収益の改善が進んでおり、設備投資の増加の動きが見られ、雇用環境の改善が着実に続く中、個人消費にも持ち直しが続いており、景気は全体として緩やかな回復基調で推移しました。

一方、世界経済は、米国では良好な雇用環境を背景に個人消費の拡大が持続し、景気回復が続いているものの、中国では米国からの輸入減少、個人消費の低迷などにより、景気の減速感が増しつつあり、米中の貿易摩擦のさらなる深刻化による貿易取引の停滞懸念、世界的な地政学的リスクの高まりなどにより、先行きは不透明な状況が続いております。

このような経済環境の下、当社グループは積極的な販売活動を展開いたしました結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は173,039百万円と前年同期比2.9%の増加となりました。

損益面につきましては、経営全般にわたる業務の効率化・合理化施策を推進してまいりました結果、経常利益は前年同期比3,373百万円増加の8,974百万円となり、親会社株主に帰属する四半期純利益は前年同期比3,393百万円増加の6,792百万円となりました。

セグメント別の概況

(ガラス事業)

建築用ガラスにつきましては、首都圏を中心とした物件が下期から動き出し始めたため、売上高は前年同期を上回りました。

自動車用ガラスにつきましては、国内は軽自動車を中心に好調であったものの、北米、欧州での販売の減速により、売上高は前年同期を下回りました。

以上、ガラス事業の売上高は108,662百万円(前年同期比0.5%減)となり、損益につきましては180百万円の営業損失(前年同期比2,431百万円の改善)となりました。

(化成品事業)

化学品につきましては、HF0製品の出荷が増加しましたが、子会社の工事売上が減少したため、売上高は前年同期並となりました。

ファインケミカルにつきましては、医薬品関連製品の販売が好調に推移し、半導体用途の特殊ガス関連製品やリチウムイオン電池用電解液製品の出荷が増加したため、売上高は前年同期を上回りました。

肥料につきましては、省力肥料の出荷が堅調に推移しましたが、一部製品の需要が減少したことにより、売上高は前年同期並となりました。

ガラス繊維につきましては、電材及び自動車分野が出荷減となり、売上高は前年同期を下回りました。

以上、化成品事業の売上高は64,377百万円(前年同期比9.3%増)となり、損益につきましては7,879百万円の営業利益(前年同期比725百万円の増加)となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当第3四半期連結会計期間末の総資産は前連結会計年度末に比べ、配当の支払や新規投資などにより現金及び預金が4,290百万円、株価の下落などにより投資有価証券が2,944百万円減少する一方、新規投資などにより有形固定資産が4,395百万円、たな卸資産が4,269百万円増加したことなどにより、2,433百万円増加し319,280百万円となりました。

負債はその他固定負債が2,037百万円、法人税等の支払などにより未払法人税等が1,088百万円減少する一方、借入などの増加により有利子負債が9,018百万円増加したことなどにより、2,724百万円増加し143,943百万円となりました。

純資産は親会社株主に帰属する四半期純利益などにより利益剰余金が4,630百万円増加する一方、株価の下落などによりその他有価証券評価差額金が5,164百万円減少したことなどにより、291百万円減少し175,337百万円となりました。また、自己資本比率は0.6ポイント減少し53.8%となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

当第3四半期連結累計期間につきましては、ほぼ計画に沿った業績で推移しておりますため、2018年5月10日に公表いたしました通期の業績予想は修正しておりません。この業績予想は、当社が現時点での入手可能な情報に基づき判断した見通しであり、実際の業績等は様々な要因によりこれらの予想とは異なる場合があります。今後の状況の変化に伴う影響を慎重に見極めながら、適宜見直していくこととしております。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位:百万円)

	前連結会計年度 (2018年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2018年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	22,673	18,383
受取手形及び売掛金	51,155	52,276
商品及び製品	25,353	26,119
仕掛品	4,932	5,890
原材料及び貯蔵品	15,975	18,522
その他	6,376	6,015
貸倒引当金	△669	△680
流動資産合計	125,797	126,526
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	30,692	32,117
機械装置及び運搬具(純額)	45,768	54,480
土地	26,664	26,615
建設仮勘定	15,511	9,568
その他(純額)	3,513	3,763
有形固定資産合計	122,150	126,545
無形固定資産		
のれん	—	58
その他	1,519	1,400
無形固定資産合計	1,519	1,458
投資その他の資産		
投資有価証券	60,994	58,050
その他	6,656	6,957
貸倒引当金	△272	△258
投資その他の資産合計	67,379	64,749
固定資産合計	191,049	192,753
資産合計	316,846	319,280

(単位:百万円)

	前連結会計年度 (2018年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2018年12月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	22,333	21,907
短期借入金	23,792	21,578
未払法人税等	2,076	987
賞与引当金	1,480	451
その他	21,795	23,204
流動負債合計	71,478	68,129
固定負債		
社債	30,400	30,400
長期借入金	16,836	25,068
役員退職慰労引当金	12	12
特別修繕引当金	5,729	5,964
事業構造改善引当金	3,108	2,720
環境対策引当金	15	16
顧客補償等対応費用引当金	—	24
退職給付に係る負債	7,650	7,656
その他	5,986	3,949
固定負債合計	69,740	75,813
負債合計	141,218	143,943
純資産の部		
株主資本		
資本金	18,168	18,168
資本剰余金	8,109	8,109
利益剰余金	124,255	128,885
自己株式	△6,392	△6,394
株主資本合計	144,141	148,768
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	27,282	22,118
繰延ヘッジ損益	37	△142
為替換算調整勘定	489	718
退職給付に係る調整累計額	263	303
その他の包括利益累計額合計	28,072	22,997
非支配株主持分	3,414	3,571
純資産合計	175,628	175,337
負債純資産合計	316,846	319,280

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第3四半期連結累計期間)

(単位:百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2017年4月1日 至 2017年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年12月31日)
売上高	168,148	173,039
売上原価	136,637	136,854
売上総利益	31,511	36,185
販売費及び一般管理費	26,968	28,486
営業利益	4,542	7,699
営業外収益		
受取利息	35	46
受取配当金	1,224	1,313
持分法による投資利益	324	190
為替差益	4	171
その他	1,080	1,263
営業外収益合計	2,670	2,985
営業外費用		
支払利息	440	472
固定資産廃棄損	395	442
その他	776	795
営業外費用合計	1,611	1,710
経常利益	5,600	8,974
特別利益		
固定資産売却益	—	732
投資有価証券売却益	296	26
関係会社清算益	—	2
特別利益合計	296	761
特別損失		
固定資産売却損	37	—
減損損失	56	—
投資有価証券売却損	0	—
特別損失合計	94	—
税金等調整前四半期純利益	5,803	9,735
法人税等	2,169	2,407
四半期純利益	3,634	7,328
非支配株主に帰属する四半期純利益	235	536
親会社株主に帰属する四半期純利益	3,399	6,792

(四半期連結包括利益計算書)
(第3四半期連結累計期間)

(単位:百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2017年4月1日 至 2017年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年12月31日)
四半期純利益	3,634	7,328
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	7,180	△5,160
繰延ヘッジ損益	57	△180
為替換算調整勘定	△305	91
退職給付に係る調整額	△66	38
持分法適用会社に対する持分相当額	93	△131
その他の包括利益合計	6,959	△5,342
四半期包括利益	10,593	1,985
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	10,323	1,535
非支配株主に係る四半期包括利益	270	449

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(四半期連結貸借対照表に関する注記)

偶発債務

強化ガラス及び耐熱強化ガラスについては、一般的に極めて稀にガラス内に含まれる除去不可能な異物が膨張することによって外力が加わらない状態で自然に破損するケースが確認されております。当社においては、このような自然破損の発生確率を低減させる措置として対象の製品につきましては製造後に再加熱処理を実施し、異物が含まれていた場合に強制的に膨張させ工程内で破損させる処理を行うこととしておりますが、当社の生産委託先である富士ハードウェア株式会社が過去に製造した対象製品の一部について、当該処理を行わずに製品を出荷していたことが判明しました。

本事案の今後の進捗次第では、顧客等への補償費用を始めとする損失等の発生により、当社の連結業績に影響を及ぼす可能性があります。現時点でその影響額を合理的に見積ることが困難なものについては、四半期連結財務諸表には反映しておりません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

当社及び一部の連結子会社の税金費用については、当第3四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

(追加情報)

(「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」等の適用)

「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」(企業会計基準第28号 2018年2月16日)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、繰延税金資産は投資その他の資産の区分に表示し、繰延税金負債は固定負債の区分に表示しております。

(重要な引当金の計上基準)

顧客補償等対応費用引当金

今後発生が見込まれる顧客等への補償費用及び損失について、合理的に見積もることが可能な金額を計上しております。

(セグメント情報)

1 前第3四半期連結累計期間(自2017年4月1日至2017年12月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			調整額 (注)	四半期連結 損益計算書 計上額
	ガラス事業	化成品事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	109,247	58,901	168,148	—	168,148
セグメント間の内部 売上高又は振替高	110	806	917	△917	—
計	109,358	59,707	169,066	△917	168,148
セグメント利益又は損失(△) (営業利益)	△2,611	7,154	4,542	—	4,542

(注) 調整額は、セグメント間取引消去であります。

2 当第3四半期連結累計期間(自2018年4月1日至2018年12月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			調整額 (注)	四半期連結 損益計算書 計上額
	ガラス事業	化成品事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	108,662	64,377	173,039	—	173,039
セグメント間の内部 売上高又は振替高	73	776	849	△849	—
計	108,735	65,153	173,889	△849	173,039
セグメント利益又は損失(△) (営業利益)	△180	7,879	7,699	—	7,699

(注) 調整額は、セグメント間取引消去であります。